

群馬県立女子大学 教育研究業績一覧（令和6年度分）

国文学科

【著書】

- 新井小枝子：共著 『日本語変異論の現在』 「〈スゲ〉と〈スゲを使った製作物〉に関する語彙の記述的研究－群馬県吾妻郡中之条町六合方言について－」 ひつじ書房 令和6年5月
- 佐藤洋美：単著 『源氏物語女房論』 新典社 令和7年3月（上梓予定）
- 鈴木崇大：単著 『山部赤人論』 和泉書院 令和6年4月
- 宮内洋：共著 『ボーダーとつきあう社会学 人々の営みから社会を読み解く』 風響社 令和6年11月 共著（編著） 『〈生活－文脈〉理解のすすめ：他者と生きる日常生活に向けて』 北大路書房 令和6年4月

【論文】

- 新井小枝子：単著 「要地方言の活用体系記述 栃木県さくら市方言」『全国方言文法辞典 資料集 活用体系』 方言文法研究会編 令和7年3月 Web 公開（予定）
- Saeko Arai 8 *Metaphorical expressions in sericultural vocabulary*. Handbooks of Japanese Language and Linguistics [HJLL] Handbook of Japanese Dialects: De Gruyter Mouton (2025/01) 単著 「郷土料理〈しもつかれ〉を表す語の形式と方言分布」『方言の研究10』（日本方言研究会編） ひつじ書房 令和6年7月
- 板野みづえ：単著 「『六百番歌合』 注解稿（一） 恋一・「初恋」」『群馬県立女子大学国文学研究』 第45号 2025年3月
- 市川祥子：単著 「稽古扇」と「恋女房」－遊廓のたたり年と泉鏡花－ 『群馬県立女子大学国文学研究』 第45号 令和7年3月 単著 「稽古扇」の上演をめぐる昭和九年（一九三四）上演と泉鏡花－ 『群馬県立女子大学紀要』 第46号 令和7年2月
- 井上一之：単著 「高校国語の漢文教材としての『桃花源記』」 早稲田教育叢書44・『古典探求－漢文関連教材をめぐる実践と研究』 学文社 令和7年3月 単著 「陶淵明『雑詩』其の一初探」 早稲田大学『中国文学研究』 第五十期 令和7年3月 単著 「陶淵明故居再論」 『中国詩文論叢』 第四十三集 令和6年12月
- 國澤里美：共著 「外国人介護士の介護施設内コミュニケーションの変容－SCATでの分析に見られる十全的参加への過程－」『日本語教育』 187号 2024年4月
- 佐藤洋美：単著 「明石姫君を抱く宣旨の娘－后がねの乳母としての位相をめぐる－」『日本文学研究ジャーナル』 第33号 令和7年3月（予定）

鈴木崇大：「山部宿禰赤人が歌六首」去年草の会編『論集 上代文学の明日を拓く』翰林書房令和6年12月 分担

富岡宏太：単著 「「君でよかった」考——多義性を持つ「でよかった」の意味と分布——」『群馬県立女子大学国文学研究』第45号 令和7年3月

二村博：単著 「大屋土由・文政・天保期の動向」『群馬県立女子大学紀要』第46号 令和7年3月 単著 「栗庵似鳩の俳諧活動・『萩のふすま』刊行をめぐって」『群馬県立女子大学国文学研究』第45号 令和7年3月

【訳書・教科書・書評等】

新井小枝子：分担執筆 『県別方言季節のことば辞典』 友定賢治・小林隆編 東京堂出版 令和7年発行予定

市川祥子：日本近代文学会 編集委員 令和5年4月～令和7年3月

井上一之：共訳 「『菁莪堂集』全訳注稿(3)」『群馬県立女子大学紀要』第46号 令和7年2月

二村博：分担執筆 『俳句の事典』 朝倉書店 令和6年11月 『文学・語学』編集委員 令和4年8月～令和6年7月

【学会・シンポジウム・講演等の発表】

井上一之：令和7年2月 「日本人の漢詩はどう見られていたのか」 富岡漢詩会 令和7年3月 「これからの日本漢詩」 富岡漢詩会

佐藤洋美：単独 「源氏物語における代作歌」群馬県立女子大学国語国文学会大会 令和6年7月

鈴木崇大：令和6年10月 萬葉学会第77回全国大会「『万葉集』における「タマ（魂）」——「魂合ふ」を中心に——

二村博：令和7年3月 「群馬県下で最初に発信する講演会」一般財団法人さかい・ふるさと創生基金主催「芭蕉の『奥の細道』の旅を支えた『曾良』は榛名神社近くに隠棲していた？」

英 米 文 化 学 科

【論 文】

木下耕介：単著 「映画のデータ・ストーリーテリング —物語映画におけるグラフィックな語りの技法—」『群馬県立女子大学紀要』第46号 令和7年2月

小林徹：単著 「知識について—『失樂園』(1674)—」『群馬県立女子大学紀要』 第46号 (群馬県立女子大学、令和7年2月)：67-96

渡辺典子：単著 「東京都杉並区におけるジェンダー平等を広めるための協働提案事業の取り組み―ブックリスト発行を中心として―」日本女子大学教育学科・日本女子大学教育学科の会『人間研究』61号 令和7年3月発行予定

【訳書・教科書・書評等】

飯村英樹：研究ノート（単著）「再現を目的とする活動における誤答分析」九州英語教育学会. 『九州英語教育学会紀要』第52号, 79-88. 令和6年7月

笠井俊和：単訳 『海賊たちの黄金時代―死の王の旗の下に』デイヴィッド・レスター作・絵、マーカス・レディカー作、笠井俊和訳、花伝社、令和6年4月 令和6年4月～ 『西洋史学』（日本西洋史学会）編集委員

木下耕介：令和6年 丸善出版『演劇の事典』編集委員 令和6年 日本映像学会「映像学」第113号投稿論文査読委員

小林隆：日本認知言語学会 論文集・予稿集編集委員会委員 令和4年～

【学会・シンポジウム・講演等の発表】

飯村英樹：令和6年・8月 「ループリックに基づく二値選択・境界定義（RBB）尺度の実用性検証：予備的研究」（共同研究）全国英語教育学会第49回福岡研究大会・福岡工業大学

木下耕介：令和6年6月2日 「情報文化と物語叙述 ―映画のデータ・ストーリーテリングについての試論・補遺」日本映像学会第50回大会（2024年度） 令和6年11月30日、12月1日 日本演劇学会研究集会（於：東京経済大学）企画運営委員会・理事として参加 令和6年6月8、9日 日本演劇学会全国大会（於：明治大学）企画運営委員会として参加

松崎慎也：令和6年10月 「The Universe According to Ainu Folk Tales: *Aynu* (Human) Ecological Attention to Coexistence with *Kamuy* (Superhumans)」 第8回東アジア文学環境国際シンポジウム

渡邊藍衣：令和6年11月 群馬県立女子大学 英米文化学会 2024年度年次大会講師 「ヘミングウェイの「ミシガンの北で」再考―女性の性的主体性と時代背景をめぐって」

【その他】

渡辺典子：単著「年表―2023年」日本婦人団体連合会『女性白書2024』出版芸術社 令和6年8月

美 学 美 術 史 学 科

【著 書】

- 青田麻未：分担執筆 『建築をあたらしくする言葉』（担当範囲：「日常美学」）TOTO 出版
令和 6 年 10 月 分担執筆 『都市の緑は誰のものか 人文学から再開発を問う』（担当
範囲：第 8 章 生活の時間と公園の時間——都市における自然が持つ美的意義）ヘウレ
ーカ 令和 6 年 9 月 分担執筆 『3STEP シリーズ 技術哲学』（担当範囲：第 11 章
都市——三つの「技術」から考える）昭和堂 令和 6 年 8 月 単著 『「ふつうの暮らし」
を美学する 家から考える「日常美学」入門』光文社新書 令和 6 年 6 月
- 三宅秀和：共著 稲本万里子編著『源氏絵研究の最前線』勉誠社、令和 6 年 10 月（担当個
所：「永徳期・光信期狩野派の源氏絵への挑戦——皇居三の丸尚蔵館所蔵の源氏物語図屏
風を中心に」127～168 頁、「東京富士美術館所蔵の源氏物語図屏風について——狩野光信
様式の源氏絵として」169～187 頁） 共著 竹内順一編『茶書古典集成 2 松屋会記』
淡交社、令和 6 年 4 月（史料翻刻を担当）

【論 文】

- 青田麻未：単著 “Past-Oriented and Future-Oriented Frames of Familiarity: Aesthetic
Experience in Everyday Life” *Contemporary Aesthetics* 22 令和 6 年 8 月 単著 「生活
のリズム——現代の日常美学と・ジョン・デューイ」『美学』75 巻 1 号 令和 6 年 7 月
- 奥西麻由子：単著 「群馬県内の美術館連携事業における教育普及に関する報告—12 年間
(2013–2024) の変遷と今日の参加者の実態調査—」群馬県立女子大学『群馬県立女子大
学紀要』第 47 号、令和 7 年 2 月 単著 「コロナ禍の芸術祭と大学生の関わり～『中之
条ビエンナーレ 2021』における『ステキ発信プロジェクト』の実践を通して」 環境芸
術学会『環境芸術 32 2024』、32 号、令和 6 年 8 月
- 藤沢桜子：単著 「古代ローマ皇帝カラカラの肖像の受容に関する一考察——14 世紀及び
16 世紀におけるコイン風「肖像画付著名人伝」を中心に——」『群馬県立女子大学紀要』
第 46 号、2025 年
- 三宅秀和：単著 「龍江院所蔵「達磨・大権像額」と狩野常信」『丸山瓦全と佐野のお宝保
護作戦！』佐野市立吉澤記念美術館、令和 7 年 1 月 単著 「狩野派 源氏物語図屏風」
『國華』1550 号、令和 6 年 12 月
- 武藤大祐：単著 「ストリップ劇場の論理と COVID-19——「本質的に不健全」な芸能の現
場」 吉田ゆか子・増野亜子編『コロナ下で` の芸能実践——場とつながりのレジリエン
ス』 春風社 令和 7 年 3 月 単著 「限界集落の芸能を開く——「関係の場」として
の朽木古屋六斎念仏踊り」 『群馬県立女子大学紀要』第 46 号 令和 7 年 3 月

【訳書・教科書・書評等】

青田麻未：分担翻訳 『女の子のための西洋哲学入門 思考する人生へ』（担当箇所：第10章 芸術——見ること、考えること、制作すること パトリシア・M・ロック／青田麻未訳）フィルムアート社 令和6年11月 書評 「上岡磨奈『アイドル・コード 託されるイメージを問う』青土社、2023年」『三田社会学』29号 令和6年7月 令和4年10月～現在 『Contemporary and Applied Philosophy』編集委員 令和4年10月～現在 ASLE-Japan/文学・環境学会発足三十周年記念論集 編集委員 *The Polish Journal of Aesthetics* 査読担当 雑誌『美学』（美学会発行）査読担当

奥西麻由子：令和5年8月～現在 環境芸術学会 学会誌編集委員

武藤大祐：「児玉絵里子著『伝統芸能と民俗芸能のイコノグラフィー 〈図像学〉』 『琉球新報』 令和6年10月20日

【学会・シンポジウム・講演等の発表】

青田麻未：令和6年6月15日 口頭発表“The Aesthetic Guideline for Urban Redevelopment Based on the Aesthetics of Care” Nordic Society for Aesthetics Conference 2024 アイスランド大学（アイスランド・レイキャビク） 令和6年9月 NHK カルチャーセンター青山教室 東京女子大学哲学専攻 100周年記念講座「哲学とジェンダー」講師「日常の美学とジェンダー」 令和6年7月 ASLE-Japan/文学・環境学会第1回例会「結城正美著『文学は地球を想像する——エコクリティシズムの挑戦』を読む～著者をまじえて～」パネリスト 令和6年7月 公開ワークショップ「美と行為」共催（「行為の美学としての日常美学：習慣をめぐる」と題して研究発表） 「散歩の技術 フレームをつくる／待つ」『ユリイカ』2024年6月号「わたしたちの散歩」令和6年5月 「幸田文『木』 ちがう時間を生きるものへの共感」『現代思想』2024年6月臨時増刊号「15歳からのブックガイド」令和6年5月

奥西麻由子：令和6年12月「ワークショップ「羽ペンを作ろう！」」第25回 環境芸術学会（ワークショップ実施）

高橋綾：令和6年12月環境芸術学会 第25回水戸大会 口頭発表・作品発表・パネル発表 令和7年3月 令和5年度屋外広告物講習会 講師「広告物等の表示の方法に関する事項」（前橋市） 令和7年3月 環境芸術学会企画 若手制作研究展「Artist of the Golden Egg」企画代表（オリエ アートギャラリー／東京都 外苑前） 令和6年6月 環境芸術学会企画「研究部会展」企画（オリエ アート・ギャラリー／東京都 外苑前）

武藤大祐：令和6年12月 舞踊学会第76回大会 「北ノルウェーにおける民俗舞踊とコンテンポラリーダンス——舞踊団 Kartellet の実践とその文脈」（京都女子大学） 令和6年6月 舞踊学会第27回定例研究会 「ストリップの上演におけるグルーブと情動——観客は何を見ているのか」（オンライン）

山崎真一：令和6年12月 環境芸術学会 第25回記念大会 茨城水戸市民会館 口頭発表

【その他】

- 奥西麻由子：グループ展 令和 6 年 9 月 「影絵スティック」 富岡まちかどアートめぐり 富岡市街地
- 高橋綾：グループ展 令和 6 年 9 月～11 月 富岡市観光交流課×群馬県立女子大学「富岡まちかどアートめぐり」(群馬県富岡市) 令和 6 年 9 月～11 月 「SAGAE まちなか芸術祭」(山形県寒河江市) 令和 6 年 10 月～令和 7 年 2 月 埼玉県こども動物自然公園アートフェスタ 2024 令和 6 年 12 月 環境芸術学会企画展『つながりと発見』(水戸市民会館) 令和 7 年 3 月 「広瀬川アートⅣ—未来を彩る GUNMA のデザイナー」(広瀬川河畔／群馬県前橋市)(企画代表)
- 藤沢桜子：その他 編著 『2024 年度「ユリノ木物語 群馬県立女子大学の歴史研究」プロジェクト活動報告』パンフレット、令和 7 (2025) 年 3 月(特定教育・研究費)
- 山崎真一：グループ展 令和 7 年 3 月 水仙まつり 野外アート展 鹿沼市花木センター(栃木) 令和 6 年 9 月 富岡まちかどアートめぐり 富岡市観光交流課主催 令和 6 年 7 月 大地の芸術祭 越後妻里 2024 「時の回廊 - 十日町高倉博物館 -」高倉集落(新潟)

文 化 情 報 学 科

【著 書】

- 神崎享子：共著 「言語と国際標準」, 『言語政策研究への案内』くろしお出版 令和 6 年 10 月
- 鈴木親彦：共著 『源氏絵研究の最前線』勉誠社 令和 6 年 10 月 共著 『IIF(トリプルアイエフ)で拓くデジタルアーカイブ : コンテンツの可能性を世界につなぐ』文学通信 令和 6 年 7 月
- 山崎隆広：単著 『音楽雑誌と政治の季節：戦後日本の言論とサブカルチャーの形成過程』青弓社 2024 年 6 月

【論 文】

- 神崎享子：共著 「診察音声からの要点自動抽出の試み」, 『Japio YEAR BOOK 2024』令和 6 年 9 月
- 黒田覚：単著 Proving Pfaffian properties in bounded arithmetic. Publication of RIMS, 2293. 13p. . (2024)
- 細川雄一郎：単著 「Disagreement Among Analyses of Counterfactuals」『Annals of the Japan Association for Philosophy of Science』Volume 33, pages 69–92, (2024) 令和 6 年 12 月
- 単著 「Interpretation of Hybrid Counterfactual Logic into Hybrid Tense Logic: and

Comparison of Their Expressive Power on Temporal Sphere Models」『Journal of Logic, Language and Information』 Volume 33, pages 391–418, (2024) 令和 6 年 11 月

山崎隆広：共著 「デジタルアーカイブ時代のエディトリアルとは：人文学オープンデータ
共同利用センター (CODH) とジャパナレッジの共同プロジェクトを手がかりに」『出
版研究』第 55 号 2025 年 3 月末予定 [鈴木親彦との共著]

【訳書・教科書・書評等】

鈴木親彦：令和 6 年 11 月～現在 『文化資源学』編集委員 文化資源学会

山崎隆広：「デジタルアーカイブ時代のエディトリアルとは：人文学オープンデータ共同利
用センター (CODH) とジャパナレッジの共同プロジェクトを手がかりに」『東京経済
大学国際シンポジウム 日本出版学会創立 55 周年記念フォーラム予稿集：第 21 回国際
出版フォーラム「出版のデジタル化とグローバリゼーション：新たな出版学のために」』
15-18 頁 2024 年 11 月 [鈴木親彦との共著／国際会議プロシーディングズ。韓国語、中
国語でも翻訳掲載] 「井口一郎・鶴見俊輔・田村紀雄：日本における『コミュニケーション
学』の成立と『オルタナティブ』という思想」田村紀雄著『コミュニケーション学の
誕生：W.シュラム学派から『思想の科学』井口一郎へのリレー』社会評論社 2025 年 3
月末刊行予定 [同書所収の解説論文]

【学会・シンポジウム・講演等の発表】

歸山亜紀：2024 年 11 月 「日本と米国の若年世代における異種移植にたいする意識：日米
価値・意識比較調査の分析 (5)」 第 97 回日本社会学会大会 (共同)

神崎享子：令和 7 年 3 月 「認知症高齢者の発話意図推定に基づく注意発話検出システムの
開発 一帰宅願望や不安などを特定するコーパス構築一」言語処理学会第 31 回年次大会
(NLP2025) 令和 6 年 10 月 「Collection and utilization of dialogue corpora in medical
and nursing care settings」 The 5th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC)
令和 6 年 9 月 「Application of NLP to Medical Practice and Tourism」 China-Japan
Natural Language Joint Promotion Conference (CJNLP) 2024

黒田寛：2025 年 2 月 「限定算術と限定逆数学」ロジックウィンタースクール 2025 (理化
学研究所)

鈴木親彦：令和 6 年 11 月 「デジタルアーカイブ時代のエディトリアルとは：人文学オ
ープンデータ共同利用センター (CODH) とジャ パナレッジの共同プロジェクトを
手がかりに」 第 21 回 国際出版研究フォーラム/東京経済大学国際シンポジウム

細川雄一郎：令和 7 年 3 月 (国際発表)「A New Reconstruction of Reichenbach's Tense
Theory in a New Hybrid Extension of Prior's Tense Logic」 A Kyoto-Taipei Workshop
on Logic of Agent 令和 7 年 2 月 (国際発表)「Disagreement Among Analyses of
Counterfactuals」 The 4th France-Japan Colloquium "Disagreement in Logic and

Reasoning” with a special Panel Session on Normativity and divergences of forms of life
令和 7 年 2 月 (国際発表)「Temporal Turn of Counterfactual Logic」 France-Japan
Philosophy One-Day Meeting – Philosophy of logic and mathematics, Wittgenstein,
Rules, Norms of Life 令和 3 年 6 月～現在 *The Uses of Argument* (Stephen E. Toulmin,
1958) 読書会主催 (隔週火曜開催)

山崎隆広：2024 年 11 月 9 日 「デジタルアーカイブ時代のエディトリアルとは：人文学
オープンデータ共同利用センター (CODH) とジャパナレッジの共同プロジェクトを
手がかりに」第 21 回国際出版研究フォーラム、日本出版学会主催 2024 年 9 月 21 日
「郡上村」調査を振り返る・『郡上村に電話がつながって 50 年』第 6 章「フィールドと
しての『郡上村』：初期ブルデューの農山村調査を手がかりに」の内容から」2024 年思
想の科学研究会秋のシンポジウム『郡上村に電話がつながって 50 年』出版記念、東京
経済大学田村紀雄ゼミ OB・OG 会、思想の科学研究会共催 2025 年 1 月 25 日 (土)
基調講演「雑誌研究の方法：音楽雑誌を手がかりにして」東京マガジンバンクカレッジ
「『大学ゼミ×雑誌』成果発表会 2025～雑誌を通じて社会を知ろう～」東京都立多摩図
書館主催

【その他】

鈴木親彦：令和 6 年 5 月 1 日 「サテライト企画セッション (3) デジタルアーカイブとデ
ジタル人文学はいかに共振するか」『デジタルアーカイブ学会誌』 8(2) pp.70-70

国際コミュニケーション学部

【著 書】

梅田真理：共著 「L2 acquisition of English flexible count and flexible mass nouns by L1-
Japanese and L1-Spanish speakers」M. Velnić, A. Dahl and K. F. Listhaug (編)『Current
Perspectives on Generative SLA - Processing, Influence, and Interfaces: Selected
proceedings of the 16th Generative Approaches to Second Language Acquisition
Conference』(pp. 134-169). John Benjamin. 令和 6 年 10 月

神谷信廣：単著 「Conflicting Deictic Gestures in EFL Classrooms: Their Frequency,
Mechanisms, and Learner Perception」『Multimodality across Epistemologies in Second
Language Research』In A. Brown, & S. Eskildsen (Eds.) Routledge 令和 6 年 4 月

甲村美帆：分担 甲村「第 1 章第 2 節 2 生成 AI と心の科学」(in 小原・金児・北島 (編著)
『実践事例で学ぶ 生成 AI と創る未来の教育』p.32-35, 2024 年 10 月 11 日 東洋館出版
社)

【論文】

神谷信廣：単著 「What characteristics of recasts facilitate accurate perception when overheard by true beginners?」『Language Teaching Research』 令和 7 年

N.スネイプ：Tovar, J. and N. Snape. (2025). Reconceptualizing translanguaging amid critique. In C. Flores and N. Snape (eds.). *Translanguaging - What is it besides smoke and mirrors?* Commentary in *Linguistic Approaches to Bilingualism*.

Snape, N., M. Umeda and H. Hosoi. (2024). L2 acquisition of English flexible count and flexible mass nouns by L1-Japanese and L1-Spanish speakers. In A. Dahl, M. Velnić and K. F. Listhaug (eds.). *Current Perspectives on Generative SLA - Processing, Influence, and Interfaces. Selected proceedings of the 15th Generative Approaches to Second Language Acquisition Conference*, (pp. 134-169),

Amsterdam: John Benjamins. Laméris, T., M. Kubota, T. Kupisch, J. Cabrelli, N. Snape and J. Rothman (2025). Language change in Japanese-English bilingual returnee children over the course of five years: evidence from accent-rating. *Second Language Research*, 41(1), 191-216.

野口和彦：単著 「何が戦争の勝敗を分ける軍事力を生み出すのか」『群馬県立女子大学紀要』第 46 号 令和 7 年 3 月（掲載決定済み）

日詰慎一郎：単著 「親切心とその関連要因が個人生産性に与える影響－アルバイトの職場における女子大学生のデータ分析－」群馬県立女子大学紀要 第 46 号: ○－○ 2025 年○月

布田朝子：単著 "Policy Procedure and Organization in Myanmar from 2011 to 2020", *Bulletin of Gunma Prefectural Women's University*, 2025, pp. 195-205

細井洋伸：共著 L2 acquisition of English flexible count and flexible mass nouns by L1-Japanese and L1-Spanish speakers. *Selected proceedings of the 16th Generative Approaches to Second Language Acquisition Conference*, ed. by M. Velnić, A. Dahl and K. F. Listhaug, 134-169. Amsterdam: John Benjamins. 令和 6 年 1 2 月

【訳書・教科書・書評等】

荒野侑甫：令和 7 年 1 月 Symbolic Interaction 査読

神谷信廣：平成 30 年 6 月より 三省堂 高等学校英語教科書「VISTA シリーズ」編集委員
平成 29 年 3 月～ 『TESOL Journal』編集委員

野口和彦：共訳 『核兵器が変えた軍事戦略と国際政治——核革命の理論と国家政策——』
芙蓉書房出版 令和 6 年 4 月 令和 6 年 11 月 戦略研究学会編『戦略研究』第 35 号 編集責任者 令和 5 年 4 月～ 戦略研究学会 編集委員会 委員

原谷直樹：書評 「前田裕之『データにのまれる経済学：薄れゆく理論信仰』」 『経済学史研究』第 66 巻第 1 号 令和 6 年 7 月

山岡健次郎：書評 「セイラ・ベンハビブ著『逆境の中の尊厳概念－困難な時代の人権』
『図書新聞』 令和6年4月3日

【学会・シンポジウム・講演等の発表】

荒野侑甫：令和7年3月 “Embodied Guidance of the Writing Hand in Japanese Calligraphy”
パネリスト International Symposium on Ethnomethodological Studies of the Practices of
Law and Medical and Health Care

神谷信廣：2024 (令和6)年8月 The effects of watching gestures and lip movements on
L2 listening comprehension. 全国英語教育学会 第49回 福岡研究大会. 単独発表

N.スネイプ：令和6年7月 「Laméris, T., M. Kubota, T. Kupisch, J. Cabrelli, N.
Snape and J. Rothman. Language change in Japanese-English bilingual returnee
children over the course of five years: evidence from accent rating and acoustic
analyses.」 European Second Language Association, Montpellier, France 令和6年
5月 「H. Zhao and M. Wang. Does explicit instruction lead to implicit processing
of L2 English generic NPs?」 International Symposium on Bilingual and L2
Processing in Adults and Children, Swansea, UK 令和6年7月 Heritage
Speakers as Real World Bilinguals. Examining Voice Onset Time (VOT) in
Japanese-English returnee children. University of California

日詰慎一郎：令和6年12月 「CDA STUDENT 資格シンポジウム 2024 対談 CDA
STUDENT 資格登録大学より～100年のキャリアを豊かに育むための学び」・パネリス
ト（「CDA 資格シンポジウム 2024 100年のキャリアを豊かに育むための学び 対談②
「CDA STUDENT 資格登録大学より～100年のキャリアを豊かに育むための学び」」
CDA ジャーナル (94) 2025年01月 16-17 掲載）

布田朝子：2024年11月 布田朝子「1970～80年代のビルマにおける経済政策と援助」
政治経済学・経済史学会全国大会、パネル口頭報告（於：北海道大学）

【その他】

野口和彦：単著 「国際関係論は『政治科学化』しているのか」アゴラ言論プラットフォーム 令和7年2月20日 単著 「批評と応答」『国際安全保障』第52巻第3号 令和6
年12月 単著 「『戦略研究』第35号編集後記」『戦略研究』第35号 令和6年11月
単著 「中国の『平和的覇権』は幻想である：階層秩序の儒教的平和という神話」アゴラ
言論プラットフォーム 令和6年10月23日 単著 「ウクライナのクルスク侵攻が意
味するもの」アゴラ言論プラットフォーム 令和6年8月23日 単著 「核時代におい
て『和平』は『正義』に優先されなければならない」アゴラ言論プラットフォーム 令和
6年6月8日 単著 「ウクライナ戦争をめぐるコーブランド教授との対話：自由な言論
空間の重要性」アゴラ言論プラットフォーム 令和6年5月24日 単著 「核武装が招

く『予防戦争』のリスク」アゴラ言論プラットフォーム 令和6年4月16日
日詰慎一郎:単著 「CDA STUDENT 導入事例 群馬県立女子大学」CDA ジャーナル(91)
2024年05月17
布田朝子:2025年3月 布田朝子 科研費基盤B研究会(於:早稲田大学) 2024年9
月 布田朝子 科研費基盤B研究会(オンライン) 2024年7月 布田朝子 科研費
基盤B研究会(オンライン)

群馬学センター・地域日本語教育センター・キャリア支援センター

【著 書】

築瀬大輔:共著 『関東徳川史観と「天正十八年問題」—シリーズ・地域史の活気を問い直
すI(地域学ブックレット 群馬の歴史と文化遺産 Vol.13)』(群馬県立女子大学群馬学セ
ンター 2025年3月) 共著 『自然災害伝承碑は警告する—シリーズ・群馬の災害
文化I—(地域学ブックレット 群馬の歴史と文化遺産 Vol.12)』(群馬県立女子大学群馬
学センター 2025年3月)
野口美美:博士論文 「談話における否定応答詞と否定応答表現」 お茶の水女子大学 博
士(人文科学) 令和7年3月
大川友美:単著 「学歴社会の終焉から考える新しいキャリア教育のかたち」 『群馬県立
女子大学紀要』第46号 令和7年2月

【訳書・教科書・書評等】

築瀬大輔:単著 「地学連携による文化財シェルターの開設—玉村町・群馬県立女子大学・
群馬歴史資料継承ネットワークとの被災文化財の保全に関する連携協定の締結—」(『群
馬学研究・KURUMA』第3号 2025年3月) 令和4年～現在 『群馬学研究・
KURUMA』(群馬県立女子大学群馬学センター)編集委員

【学会・シンポジウム・講演等の発表】

築瀬大輔:令和6年11月6日 「群馬県における大学・行政・史料ネットの連携による地
域資料保全の取り組み」 東アジア科学研究会(第8回東アジア史料研究編纂機関国際
学術会議準備報告会)〈テーマ〉(令和6年度科学研究費助成事業／アジア歴史資料の
保全と学術資源化／研究代表者:杉森玲子)(東京大学史料編纂所) 令和6年12月21
日 第46回群馬学連続シンポジウム「関東平野の文化的景観と防災文化財」〈シリーズ・
群馬の災害文化II〉(主催・会場:群馬県立女子大学) 令和6年6月22日 第45回
群馬学連続シンポジウム「上野介源頼信とその時代—「亡弊史観」を見直す—」〈シリー
ズ・地域史の画期を問い直すII〉(主催・会場:群馬県立女子大学)